

富士フイルム、 10月にもアビガン 申請

富士フイルムホールディングスは23日、10月にも新型コロナウイルスの治療薬として、アビガンの製造販売の承認を申請すると発表した。臨床試験（治験）でアビガン投与することで症状が早期に改善することを確認できた。厚生労働省は早ければ年内に承認する可能性がある。

治験では156人の肺炎患者を2つのグループに分け、アビガンを投与した患者と偽薬を投与した患者を比較。症状が良くなりウイルスが陰性になるまでの日数の中央値が、アビガンを投与した患者は11.9日だったのに対し、偽薬では14.7日だった。安全性の新たな懸念も認められなかったという。

アビガンは富士フイルム子会社の富士フイルム富山化学が開発し、新型インフルエンザ治療薬として、すでに承認されている。富士フイルムは10月中にも承認事項の一部変更を申請し、新型コロナの治療にも使えるようにする。承認されれば「レムデシビル」と「デキサメタゾン」に続き、新型コロナ薬としては3例目となり、国内の製薬会社が開発した薬としては初めてとなる。